

素敵な本との出会いを

読書は、「考える力」感じる力などを育てるとともに、豊かな情操を育んでいく上でとても大切です。こども達が、本に接しやすい環境づくりを推進していきましょう。

親子向け

- 「このよで いちばん はやいのほ」
 ロバート・ブローマン/作 天野 礼吉/翻訳
 あべ 弘士/絵……………福音館書店
- 「ふくろうくん」アーノルド・ローベール/作 三木 卓/訳
 ……………文化出版局
- 「みどりのゆび」モーリス・ドリュオン/作 安東 次男/訳
 ジャクリヌ・デュエム/絵……………岩波書店

読みたいときに、すぐに読めるように学級文庫を充実させています。



小学校高学年向け

- 「騎士とオバケ」たかどの ほうこ/作
 飯野 和好/絵……………フレーベル館
- 「チョコレート工場」ロアルド・ダール/作
 藤原 高純/訳 ケンティン・ブレイク/絵……………評論社
- 「シャーロットのおくりもの」E.B.ホワイト/作
 さくま ゆみこ/訳 ガース・ウィリアムズ/絵……………あすなろ書房

子どもと一緒に本を読んでいます。毎日、10分から始めました。



週末、公園に遊びに行った帰りに、図書館によっています。



幼児・小学校低学年向け

- 「くんちゃんのだいらょう」ドロシー・マリノ/文 絵
 石井 穂子/訳……………岩波書店
- 「たんたのたんてい」中川 李枝子/作
 山脇 百合子/絵……………学研
- 「くまの予ウーフ」神沢 利子/作 井上 洋介/絵
 ……………ポプラ社

学校に読み聞かせに行った時の、子どもたちの自のかがやきに元気をもらっています。



中学生向け

- 「14歳」千原 ジュニア/作……………講談社
- 「幸福な食卓」潮尾 まい/作……………講談社
- 「15歳の日本語上達法」金田一 秀雄/作……………講談社

夢を育み未来を切り拓く松阪の人づくり

松阪市教育委員会では、「本居宣長さんの教え、5つのチャレンジ」を策定し、これを松阪の子どもたちの「あるべき姿」として、地域の未来を担う子どもたちを、学校・家庭・地域が丸となって育てる取り組みを進めています。松阪市教育委員会

本居宣長さんの教え

「志しを高く大きに立てて つとめ学ぶべき」
 (大きな夢をもち、目標を立てて学ぶことが大切です。)

この言葉は、本居宣長さんが研究の心構えや態度についてわかりやすく著した国学の入門書「うひ山ぶみ」の中の一節です。宣長さんは、「大きな目標を立てて努力し学ぶのがよい。」と言います。そうすることによって自然と成果や結果が出てくると言います。

「倦ずおこたらずして はげみつとむる」
 (いやになったりやめたくなったりしても、あきらめなくて続けましょう。)

この言葉も、「うひ山ぶみ」の中に出てきます。「学問(勉強)というのは、いやになったりやめたりしないで、じっと打ち込んで努力すること、つまり継続が大事で、こつこつと続けること、どれだけ方法が立派でも、怠けて努力しなければ、成果を得ることはできない。」のです。

「家の業 なおこたりそね」
 (学問をするにも、まずきちんとした生活者であることが大切です。)

これは、学問の秘訣(とっておきの方法)を尋ねてきた若い人に宣長さんが送った「家の業」の歌の一節です。趣味や好きなこと、勉強をするのに、まず自分のふだんの生活のことをしっかりすることが大切だと述べています。

50のチャレンジ わたしたち松阪市の子どもは、一人ひとりが宣長さんから学んだことを大切に、自分で考えてチャレンジします。

わたしたちは、「わからない」とあきらめず、納得がいくまで考えます。

わたしたちは、授業をふり返り発見したことを、自分の言葉で書きます。

わたしたちは、毎日、自分で決めた時間に家庭学習をします。

わたしたちは、毎日、家で読書をします。

わたしたちは、テレビを見たり、ゲーム・スマホをしたりする時間を決めて守ります。

